

## 申し入れ 別紙 教職員アンケート

- 文科省が今年度の実施はしないと言っているのに、伊丹市が実施するという理由がわからない。
- コロナ禍の中、子どもたちは疲れているはずなのに、それでも実施する価値のあるものなのか。
- 学校では、カリキュラムを考え直して実施をしています。その中でなくなったはずの調査を復活させる意味がわからない。子どもたちがこの調査を楽しみにしているわけではない。実施をするなら子どもたちが楽しめるものにするべきだ。
- 調査をしたとして、その結果をどのように子どもたちに返していくのか。例年のように個評が返ってくるわけではない。今年度はつけるのか。実施してほしいという教育委員会が一人一人に書くのか。やりっぱなしでは意味がなくなる。どのように考えているのか。学校の仕事にしてほしくない。
- 教職員は、コロナによる休校で遅れた分をカリキュラムを組みかえたり、精選したりしながら、少しでも「わかる授業」になるよう工夫して日々がんばっている。前学年の未習分も含め、それでも十分に補うには時間が足りていない。そんな中の調査、本当に意味があるのか。
- 採点、分析はだれが？同じ観点でしなければ、正確な結果は出ない。また、学校現場が超多忙な中、教員が採点するのか？校長も含め、市教委もコロナ対策で多忙なはず。委員会が伊丹市全児童・生徒分採点、分析してくれますか。一度、現場の様子を一日通して見に来てください。各校を回ってください。そして、私たちの声を直に聞いてほしい。
- 現場軽視。いい加減ににしてほしい。なんでもおろせばいいのではない。現場は限界です。
- 時数に余裕はない。調査をする時間はとれない。
- 採点基準は出るのか。記述問題の採点には時間がかかる。
- 採点や分析の期間が延長されたとしても仕事は減らないのだから何も変わらない。年間を通して、子どもも教職員も休みがほとんどなくなっていることを理解しているのか。
- 全国で実施されるわけではなく、市で非公式(?)に実施し、その結果を集めてどうするのか。活用方法がわからない。見えてこない。
- 仮に実施したとして、子や保護者からすればテストをしたのに結果が出ないでは困る。その点をどうするのか。

- 学習のカリキュラムが目一杯の中で学力テストをすれば、カリキュラムが消化できない。
- 国が『配布について』で「活用していただければ幸い」と実施しろと言っていないのに、どうして市単位で強制するのか。
- 「成績が悪い」とか、何のために行われる調査なのか。
- 「有効活用」という文科省の広い活用範囲の一番狭いところをとっている意味が分からない。
- テストに時間が割かれるだけでなく、対策、できなかった問題への説明など行わないといけない。テストを受けさせて終わりではない。
- なぜ行うのか、理由が明確ではない。「現状を把握したい」だけなのか。
- 校長会ですら反対していたのに、現場の声も聞いていないのに、どうして全校実施なのか。決定プロセスが不透明。誰が何のために実施を決めたのか はっきりしてほしい。もっと納得できる理由はないのか。
- 市内の学校で平均を出す必要がない。3月からの休校。休校中の各家庭での取り組みにも差があり。その差を何とかしようとしているところ。各校の状況もバラバラの中で、平均といえるのか。学校間の差別化につながるのでは。
- 行事がいろいろとカットされている中で、このテストだけは実施というのは負担である。子どもたちは学習に必死なのに、楽しみもないのに。
- 行事（修学旅行、自然学校等の代案）は“学校によって”というのに、テストに関しては“市内統一”というのはおかしい。
- 近隣の市ではやっていない。それでも伊丹市が「やる」という理由がわからない。
- 調査の目的、理由とメリットを明確にする必要がある。納得感が得られないまま実施できない。
- 夏季休業短縮等の長期休業の短縮や学校行事の精選は、今年度中に学年の学習内容を履修するためであり、調査実施のためではない。
- 兵庫県独自の調査もあり、子どもや担任への負担が過度になる。
- 児童、生徒の健康面を考慮すると、現段階では学習内容と進度にゆとりがなく、疲弊している中でさらに追い打ちをかけることになる。
- 現段階、コロナ対策等で疲弊している職員にとって、自校での採点・分析にかかる時間と労力が平素の授業にいかされるメリットがあまり感じられず、調査による児童への学力向上等に還元されない。
- コロナ対策や第2波への懸念、学校行事の検討など、調査よりも優先事項がある中で、調査に優位性があるとは思えない。
- 子どもたちに約3か月のブランクがある中、昨年度までの実態と比較すること

は難しい。

- 学力調査は、実施にかなりの時間を要するので、これ以上授業時間が圧迫されるのはさげたい。
- 今年度中に学習内容を終わらせるため、夏季休業も短縮してすすめている。また、限られた時間の中で量の多い学習内容をいかに工夫して理解してもらうか日々努力を積み重ねてきた。調査を行う時間を学習を行う時間として活用したい気持ち強い。
- 行事も少ない中、取り組んでいる6年生の児童の気持ちにも配慮してほしい。
- 授業時数を確保するために、行事もなくなり、夏休みも一週間しかなくなっている状況で、この調査に時間をかけるということは矛盾している。
- 児童は、行事もなくなり楽しみが減っている中、さらに夏休みも短い期間しかなく、それでもコロナのこの状況だから仕方がないと、何とかがんばって学校生活を送っています。そのうえさらに、子どもたちにとって楽しみではないテストを強いることになるのは、本当に子どもたちのためになるのだろうか。
- 子どもたちと同様、教職員もコロナの対応に追われ、平常時よりも業務が増え、さらに感染しないように緊張感をもって指導している中で、さらに調査の採点・分析をするという業務が増えることになる。受け入れられるものではない。
- 第2波に向けてのタブレット研修・子どもへの授業等、しなければならないことはいくらでもある。現場に余裕はない。
- 全国調査が行われない中、結果をどのように分析するのか。伊丹市内で順位をつけるためなのか。子どもや保護者へ結果を伝えるにしても十分なものはできない。